

今、改めて考える信用金庫の源流

二人は万人のために、万人は一人のために

(ライフアイゼン)

5～10年後のビジネスモデルを
考えるにあたり、心にとめておき
たいのは、信用金庫の源流とその
想いであろう。

信用金庫は協同組合金融機関
であり、いわゆる協同組合組織の
ひとつである。協同組合の歴史を
紐解くと、後世に大きな影響を及
ぼした協同組合の源流はヨーロッパ
にある。イギリスは消費協同組合
すなわち生活協同組合(生協)の
母国であり、ドイツは信用組合の
母国であるといわれる。

まずはイギリスについてふれてみ
たい。イギリスでは18世紀末から
19世紀初頭にかけて、イギリス産
業革命の進展とともに、貧富の差

が大きく拡大し、多数の労働者は
生活必需品(小麦粉など)を購入
する場合であっても、良質な品物
を購入できないばかりか、品質が
悪く高額な品物しか購入できな
い状況に追いやられることが多かっ
た。

そこで、イギリスでは多数の労
働者が生活必需品の一括購入のた
めに結集する経済協同組合が全
国各地に設立された。しかしなが
ら、多くの協同組合は経営の仕組
みが未熟であり、解散に追い込ま
れるケースも少なくはなかった。

こうした先人たちの失敗を踏
まえて、現在のマンチェスターのロッ
チデール(Rochdale)に

「ロッチデール
公正先駆者
組合」が創設
された。この
先駆者組合の
特徴は、持続
的かつ恒久的
な経営が目指
されている点
にあり、のちに
「ロッチデール
原則」として
体系化されて
いくとともに、
後世の手本と
して示される
こととなる。

■ 協同組合金融機関設立のあらまし(日本・欧米)

年	主な出来事	欧 米	日 本
1760	イギリス産業革命		二宮尊徳、小田原藩家老服部家で困窮 武士を対象とした金融互助組織「五常講」 を設立
1814			
1844		イギリスで「ロッチデール公正先駆者組合」創設	
1848	ドイツ産業革命		
1850		ドイツで、シュルツェ・デーリチュが 「市街地信用組合」設立	
1862		ドイツで、ライフアイゼンが「農村信用組合」を設立	
1864		イタリアで、ルツアルティが「庶民銀行」を設立	
1868	明治維新		
1879			二宮尊徳の高弟岡田良一郎が「勤業 資金積立組合(現在の掛川信用金庫)」 を設立
1891			品川弥二郎・平田東助が「信用組合法案」 提出(議会議決により審議未了)
1895		イギリスで「国際協同組合同盟(ICA)」結成	
1900		カナダで、デジャルダンが 「庶民金庫(ケース・ポピュレール)」を設立	「産業組合法」交付、施行
1909		アメリカで、デジャルダンが 「信用組合(クレジット・ユニオン)」を設立	

(備考) シュルツェ・デーリチュ著 東信協研究センター訳編『シュルツェの庶民銀行論』
日本経済評論社(1993年)および村本孜『信用金庫論-制度論としての整理』きんざい(2015年)より
信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

■ 経済門と道徳門(大日本報徳社、掛川市)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

その後、明治維新を経て、日本へ近代的な協同組合思想が、欧州へ視察に行つた品川弥

二郎や平田東助などによつてもたらされた。信用金庫法の前身である産業組合法の施行までにシュルツェ・デーリチュの案を骨子とするか、ライファイゼンの案を骨子とするかなどさまざまな紆余曲折があつたことも認識しておく必要がある。

ここで改めて考えておきたいのは、非常に興味深いことに、日欧とも協同組合金融機関の源流はほぼ同時期に誕生している。ひるがへて、今日を鑑みると、日欧ともリーマンショックという荒波を乗り越え、新たな金融環境に立ち向かつていくのである。

5～10年後のビジネスモデルを築くにあたり、ライファイゼンが述べた自助・自律・自己責任にもとづく「二人は万人のために、万人は一人のために」という連携の理念について、

つぎに、ドイツについてふれてみたい。19世紀半ばに産業革命がおきたドイツにおいては、イギリスと同様に貧富の格差が広がり、金融機関にアクセスできるのは富裕層などの限られた人々であつた。そこで、手工業者や小規模事業者などのためにシュルツェ・デーリチュが市街地信用組合(フォルクスバンク)を設

立した。また、小規模な零細農業者などのために、ライファイゼンが農村信用組合を設立した。

これに対し、日本において、信用金庫を含む協同組合金融機関という業態の歴史を紐解くと、江戸時代に二宮尊徳が「五常講」という相互扶助の金融(協同組合)の仕組みを創設したことに始まるといわれる。大

■ 協同組合金融機関設立の波及(日本・欧米)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

現在の金融環境に活かすよう知恵をしぼるとともに、実現に向けて二つ地道に課題を解決していくことが重要ではなからうか。

信金中金月報2015.8増刊号より出典
信金中央金庫 地域・中小企業研究所

主任研究員 中西 雅明

参考文献

シュルツェ・デーリチュ著 東信協研究センター訳編「シュルツェの庶民銀行論」日本経済評論社(1993年)

村本政「信用金庫論―制度論としての整理」きんざい(2015年)